

子どもを救ういじめが終わる方程式

品田 奈美 著

人間心理を理解した対応を提唱

「いじめが終わる方程式」を提唱している著者は断言する。

「複数の人間が集う限り、どのような場所・組織においても、いじめは起き得るのです」

だから、かつて「いじめ0運動」といった政策を進めたところもあったが、現実的ではなかった。昨今、大人の組織で深刻な問題になっているパワハラは、大人社会の典型的ないじめである。問題はそのいじめを早く終わらせる知恵になる。

著者によれば、いじめの方程式は次のようになる。

「『自分』が『自分』をいじめる」

「いじめが発生する」
「さらに、いじめが終わる方程式も示していた。」

「『自分が自分を『愛する』』
「いじめが存在できない」

この理由については本書に詳しく論じられている。いじめ問題の背景にある人間心理を見事にえぐっている。この人間心理を理解しないと、教室で「いじめはいけません」などという指導しても、効果がないことを、教えられる。「いじめ」防止の指導は、いつも形式的になるのが隘路^{あいつろ}なのだ。いじめがなくなる姿を著者は次のように力強く語る。

「『自分が自分を『愛する』、『大切にする』、『受け入れる』ことで、『いじめが存在できない』世の中になるのです」

本書を精読して、いじめ心理を学びたい。

（庭野 三省・新潟県十日町市教育委員会教育委員）



学事出版 1760円
☎03・3255・5471

日本教育新聞社の許可を得て掲載しています。著作権は日本教育新聞社に帰属します。無断転載はご遠慮下さい。

未来の子ども達プロジェクト